

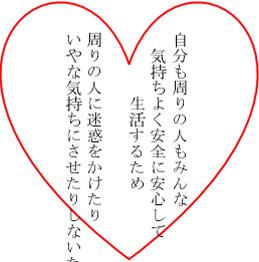
「道徳の時間」学習指導案（略案）

- 1 学 年 第4学年
- 2 主題名 「きまりを守って」（内容項目C-（11）規則の尊重）
- 3 ねらい お母さんがよし子にどんな考えを大切にしてほしいのかを考えるを通して、自分のことばかり考えるのではなく、相手や周りの人の立場に立って考え行動することの大切さに気づき、進んできまりを守ろうとする態度を育てる。
- 4 教材名 「雨のバス停留所で」（出典：「わたしたちの道徳」小学校3・4年 文部科学省）
- 5 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き (◎中心発問)	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導 入	1 課題意識をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今日一日、きまりがなく過ごせたらどうですか。</li> <li>・うれしい。</li> <li>・みんなが好きなことをして、けがや事故につながるので危ない。</li> <li>・けんかになるかもしれないから困る。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">きまりは何のためにあるのだろう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ きまりがない生活を考えさせることで、本時の学習への方向付けを行う。</li> <li>○ 「きまりは何のためにあるのだろう。」と、ねらいとする道徳的価値について問うことで、本時の課題意識をもたせる。</li> </ul>
展 開	2 教材「雨のバス停留所で」を読んで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ このお話の中で、みんなで考えてみたい場面はどこですか。</li> <li>・よし子が停留所の先頭に並んだ場面。「(よし子や周りの人の思い)</li> <li>・お母さんがだまされたまま怒っている場面。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 雨の中をかけ出し、停留所で一番先頭に並んだとき、よし子はどんなことを考えていたでしょう。</li> <li>・早く乗りたい。</li> <li>・これ以上ぬれたくない。</li> <li>・座れるといいな。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ よし子の行動は、悪いことでしょうか。</li> <li>【悪い】</li> <li>・軒下であっても来た人からみんなが順番を守って並んでいる。</li> <li>・順番を守って並んでいる人は、抜かされていやな気持ちになる。</li> <li>・周りの人たちのことを考えたら順番をぬかすことはおかしい。</li> <li>【悪くない】</li> <li>・おばさんへのお土産の紙袋を濡らしたくない気持ちも分かる。</li> <li>・軒下の列は、雨宿りの場所だから、本当の列とは言えない。</li> <li>・本当は停留所の前が並ぶ場所だから、そこに一番に並んだよし子の行動は悪くない。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ お母さんは、よし子に何に気付いてほしいのでしょうか。</li> <li>・周りの人に迷惑をかけないでほしい。</li> <li>・待っている人のことを考えて、順番を守って列の後ろに並んでほしい。</li> <li>・自分勝手にしない。</li> <li>・周りの人のことを考えてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ みんなで考えていきたい場面を問うことを伝え、課題意識をもって聞かせる。</li> <li>○ 児童の考えてみたい場面から、本時の課題を解決するための発問につなげる。</li> <li>○ 場面絵を提示しながら状況を把握させることで、自分のことしか考えていないよし子の気持ちに共感させ、自分と重ねて考えやすくさせる。</li> <li>○ 「悪い」「悪くない」の判断だけでなく、なぜそう考えたのか理由も入れて語らせることで、多様な価値観があることに気付かせる。また、「悪くない」の立場が出ない場合は、T2が「悪くない」という立場で理由を延べることで、しっかりと多面的・多角的に考えさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークシートを活用することで、自分の考えをまとめさせる。</li> <li>○ 「きまりではないのに、なぜお母さんは怒ったのだろう。」と補助発問することで、規則でなくても、社会には一</li> </ul>

		<p>〔問い返し〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 周りの人のことを考えるとはどういうことですか。</li> <li>・周りの人に嫌な思いをさせない。</li> <li>・自分のことばかり考えない。</li> <li>・たとえ誰も何も言わなくても、自分で考えて行動する。</li> <li>・みんなが気持ちよく過ごせるよう行動する。</li> <li>○ きまりは何のためにあるのでしょうか。</li> <li>・自分も周りの人もみんな気持ちよく、安全に安心して過ごせるようにするために、廊下を走らないように気をつけています。自分がけがをしないだけでなく、他の人もけがをせず安全に安心して生活できるからです。</li> <li>・きまりがなかったら、まわりの人に迷惑をかけた、いやな気持ちにさせたりするから。例えば、集まる時、無言集合に取り組んでいます。それはみんなが話をしていると大事な話が聞こえず、みんなに迷惑をかけた、いやな気持ちにさせたりするからだと思います。</li> </ul>	<p>人一人が周りの人のことを考えて行動することが必要である場面があるということに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「周りの人のことを考える」とはどういうことかと問い返すことで、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めさせる。</li> <li>○ ワークシートを活用することで、自分の考えをまとめさせる。</li> <li>○ 「例えば」と問い、具体的な場面を自分の生活を振り返って話すことができるようにさせる。</li> <li>○ ペアトークをすることで、自分の生活を振り返りやすくさせる。</li> </ul>
終末	3 本時の学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今日の学習で学んだことや発見したことを書きましょう。</li> <li>・ぼくは、今まで「ちょっとくらいいいかな。」と思ってきまりを守らなかったことがあります。でも、みんなが守らなかったら、人に迷惑をかけ、嫌な気持ちになったり、けがをしたりする人が出てきます。きまりを守って、みんなが笑顔で楽しくなるように生活したいです。</li> <li>・私は、図書室で静かに本を読むことをずっと守ってきました。今日の学習で、それもきまりの一つで、周りの人のことを考えた、気持ちのよい生活につながる行動になっていることが分かって嬉しくなりました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 導入でもたせた課題とつなげて考えさせることで、考えの深まりや変容を自覚させる。</li> <li>☆ きまりの意義や良さを理解し、自分とのかかわりで捉えている。(発言、ワークシートへの記述)</li> </ul>

## 6 板書計画



自分も周りの人もみんな  
気持ちよく安全に安心して  
生活するため  
周りの人に迷惑をかけた  
いやな気持ちにさせたりしないため

きまりは何のためにあるのだろう。



だまったまま

お母さんは、よし子に何に気づいてほしかったのだろうか。

- ・周りの人に嫌な思いをさせない
- ・自分のことばかり考えない
- ・誰も言わなくても自分で考えて行動
- ・みんなが気持ちよく過ごせるよう行動
- ・待っている人のことを考えて順番を守って列の後ろに並ぶ
- ・自分勝手をしてはいけない
- ・周りの人にめいわくをかけた
- ・周りの人のことを考える

雨のバスでいりゆう所で考えた場面

・よし子が停留所の先頭に並んだ場面  
・お母さんがだまったまま怒っている場面



悪い

悪くない

早く乗りたい。  
これ以上ぬれたくない  
すわりたい。

軒下でも順番を守って並んでいるならんでいる人はいやな気持ち  
周りの人のことを考えたら順番をぬかすことはおかしい  
紙袋をぬらしたくない  
軒下は本当の列とは言えない  
停留所に一番に並んだから

きまりがなかったらうれしい  
けがや事故につながり、あぶない  
けんかになって困る

きまりは何のためにあるのだろう。



こわい顔



ぐいと